

《第1節》

【節】英語版テキスト p.5 上段。

Aum uśan ha vai vājaśravasaḥ sarvavedasaṁ dadau ;

オーム ウシャン ハ ヴォイ ヴァージャシュラヴァサハ サルヴァヴェー
ダサム ダダウ ;

tasya ha naciketā nāma putra āsa.

タッスヤ ハ ナチケートー ナーマ プットラ アーサ

【単語】英語版テキスト p.5 中段。

- ・ ウシャン (uśan : 報酬を願い) [儀式をすることで得られる報酬を願い]
- ・ ヴァージャシュラヴァサハ ハ ヴォイ (vājaśravasaḥ : ヴァージャシュラ
ヴァサハ ha : 強調詞 : 全く、本当に、確かに vai : 肯定詞 : 実に、誠に)
[(寄付行為で昔から有名な聖者の家系の) ヴァージャシュラヴァサハ]
- ・ サルヴァ ヴェーダサム (sarva : すべての vedasam : 財産、富)
- ・ ダダウ (dadau : 与えた、寄付した *過去形)
[財産すべてを寄付するヴィッシュワジイトという儀式 (ヤグギヤ) をした]

- ・ タッスヤ (tasya : 彼には) [彼=ヴァージャシュラヴァサ]
- ・ ハ ナチケートー ナーマ (ha naciketā nāma : ナチケートーという名前
の)
- ・ プットラハ (putraḥ : 息子)
- ・ アーサ (āsa : いた)

【訳】英語版テキスト p.5~6。

寄付行為で有名な聖者の家系であるヴァージャシュラヴァサは、もっと多くの
報酬(儀式の恩恵)を願って、自分の富すべてを寄付するヴィッシュワジイトと
いう儀式を行った。彼にはナチケートーという名の若い息子がいた。

【訳】協会書籍『ウパニシャッド』p.44、8行目。

ある時、ヴァージャシュラバスの子ウシャス*は神の恩恵を願い、財産すべてを
捧げる必要のある供儀を執り行った。

(*協会書籍 注1より⇒底本では供儀を執り行ったのはヴァージャシュラバスとなっているが、サンス
クリット原典に基づいてヴァージャシュラバスの子であるウシャスに改めた)

《第2節》

【節】英語版テキスト p.6 中段。

tam ha kumāram santam dakṣiṇāsu nīyamānāsu śraddhāviveśa
so'manyata.

タム ハ クマーラム サンタム ダクシナーズ ニーヤマーナーズ シュラ
ッダーヴィヴェーシャ ソーアマンニヤタ

【単語】英語版テキスト p.6 中段。

- ・タム ハ クマーラム サンタム (tam ha kumāram santam : 息子、ナチケーターは若かった)
- ・ダクシナーズ (dakṣiṇāsu : 贈り物 *複数)
- ・ニーヤマーナーズ (nīyamānāsu : 捧げられた)
- ・シュラッダー (śraddhā : 信仰し尊敬する性質)
- ・アーヴィヴェーシャ (āviveśa : 中に入った) [シュラッダーが中に入った]
- ・サハ (saḥ : 彼)
- ・アマンニヤタ (amanyata : 沈思黙考した)

【訳】英語版テキスト p.6 下段。

ナチケーターは父が捧げた贈り物の類を見た。ナチケーターは若かったが聖典の教えを信仰し尊敬していた。彼はその信仰の光の中で沈思黙考した。

【訳】協会書籍『ウパニシャッド』 p.44、9~13 行目。

(前半が第3節に該当) だが彼は、家畜のみ、それも、使いものにならないような、年老いたもの、不妊のもの、盲目のもの、不具のもののみを捧げるように心がけた。

(後半が第2節) この吝嗇^{りんしょく} (*けち。ひどい物惜しみ) さを見て、彼の若い息子であるナチケータスは聖典の説く真理を心に受け止めていたので、ひそかに考えた。

《第3節》

【節】 英語版テキスト p.7 中段。

pitodakā jagdhatṛṇā dugdhadohā nirindriyāḥ ;

ピトーカー ジャグダハトウリンナー ドウグダハドーハー ニリンドウリ
ヤーハ ;

anandā nāma te lokāstān sa gacchati tā dadat.

アナンダー ナーマ テー ローカースターン サ ガッチャティ ター ダ
ダト

【単語】 英語版テキスト p.7 下段。

- ・ピトーカーハ (pitodakāḥ : 水を飲み終わった) [水を飲むことができないほど老いている]
- ・ジャグダハトウリンナーハ (jagdhatṛṇāḥ : 草を食べ終わった) [草を食べることができないほど老いている]
- ・ドウグダハドーハーハ (dugdhadohāḥ : 牛乳を出すことができない)
- ・ニリンドウリヤーハ (nirindriyāḥ : 器官がない) [子牛を生むことができない]

- ・アナンダーハ (anandāḥ : 楽しみが何も無いこと)
- ・ナーマ テー (nāma te : ~で知られる)
- ・ローカーハ ターン (lokāḥ tātān : その世界へ tātān : その、それ)
- ・サハ (saḥ : 彼は) [(贈り物をする) ナチケーターの父]
- ・ガッチャティ (gacchati : 行く * 現在形)
- ・ター (tā : それ)
- ・ダダト (dadat : 与える、寄付する * 現在形)

【訳】 英語版テキスト p.8。

贈り物は病気や老いでミルクも出ない、子も産まない牝牛たちである。他者への贈り物として、そのようなものを捧げる者は、[死後]「アナンダー」といわれる喜びや楽しみが何も無い世界に行く。

【訳】 協会書籍『ウパニシャッド』 p.44、9行目。

だが彼(ナチケーターの父)は、家畜のみ、それも、使いものにならないような、年老いたもの、不妊のもの、盲目のもの、不具のもののみを捧げるように心がけた。この吝嗇さを見て、彼の若い息子であるナチケーターは聖典の説く真理を心に受け止めていたので、ひそかに考えた。「まことに、このような無価値な犠牲をあえて捧げるような者は、完全な闇に落ちる運命にある」

《第4節》

【節】 英語版テキスト p.9 上段。

sa hovāca pitaram tata kasmai mām dāsyasīti ;

サ ホーヴァーチャ ピタラム タタ カスマイ マーム ダースヤスィーテ
イ ;

dvifīyam tṛfīyam tam hovāca mṛtyave tvā dadāmi.

ドウヴィティーヤム トウリティーヤム タム ホーヴァーチャ ムリッティ
ヤヴェー トウヴァー ダダーミーティ

【単語】 英語版テキスト p.9 上段。

- ・ サハ ハ ウヴァーチャ (sa ha : 彼は uvāca : 言った)
- ・ ピタラム (pitaram : 父に)
- ・ タタ (tata : お父さん、)
- ・ カスマイ (kasmai : 誰に)
- ・ マーム (mām : 私を)
- ・ ダースヤスィ (dāsyasi : 与えますか)

- ・ ドウヴィティーヤム (dvifīyam : ふたたび) [父が答えなかったので、再度]
- ・ トウリティーヤム (tṛfīyam : 三たび)
- ・ タム ハ (tam ha : 彼に)
- ・ ウヴァーチャ (uvāca : 言った)
- ・ トウヴァー (tvā : あなたを)
- ・ ムリッティヤヴェー (mṛtyave : 死の神に) [死の神=ヤマ]
- ・ ダダーミー (dadāmi : 与える、寄付する *未来形)

【訳】 英語版テキスト p.9 中段。

ナチケーターは彼の父にたずねた、「お父さん、私を誰に寄付しますか？」。[父が答えなかったので] 2回、3回、と繰り返し同じことを問うと、ついに父は答えた、「私はお前を死の神に差し上げよう」。

【訳】 協会書籍『ウパニシャッド』 p.44、13行目。

このように思い、彼は父のもとに行って訴えた。

「父上、私もまたあなたのものです。私を誰に与えるのですか？」

父は答えなかった。しかしナチケーターはその質問を何度も何度も繰り返したので、父は我慢できずに答えた。「汝は、死の神にくれてやろう！」

《第5節》

【節】 英語版テキスト p.10 上段。

bahūnāmemi prathamō bahūnāmemi madhyamaḥ ;

バフナーメーミ プラタモー バフナーメーミ マッディヤマハ ;

kiṁ svidyamasya kartavyam yanmayā'dya kariṣyati.

キム スヴィッディヤマッサヤ カルタッヴィヤム ヤンマヤーディヤ カリ
シュヤティ

【単語】 英語版テキスト p.10 上段。

- ・ バフナーム エミ プラタマハ (bahūnām emi prathamah : 数多くの者の中で私がもっとも優れている) [数多くの子供や弟子の中で]
- ・ バフナーム エミ マッディヤマハ (bahūnām emi madhyamah : 数多くの者の中で私は次に優れている) [最も優れていなくても少なくとも次に優れている]
- ・ ヤマッサヤ キム スヴィット カルタッヴィヤム (yamasya kim svit kartavyam : ヤマが望む奉仕は何だろうか? svid : 何 kim : ~か?)
- ・ ヤン マヤーディヤ カリシュヤティ (yan mayādyā kariṣyati : 私が彼のために出来ること)

【訳】 英語版テキスト p.10 中段。

私は確かに父の数多くの子供や弟子の中で一番の者である。そうではないとしても少なくとも二番目に優れた者である。[最悪の者では決してない] 父はそのような私をヤマに送るが、ヤマはどのような奉仕を望んでいるのだろうか？

【訳】 協会書籍『ウパニシャッド』 p.44、13 行目。

それを聞いて、ナチケートスは考えた。「父上の数多い息子や弟子たちの中で、私は最も優れたものである。少なくとも中位ではある。最悪のものではない。その私が何のために死の神のもとへ行くのだろう」